

感染症を中心とした健康危機管理において統括保健師に必要とされる 技術項目と具体例

1 組織マネジメント

No	感染症を中心とした健康危機管理において統括保健師に必要とされる技術項目と、その具体例
1	<p>地域住民の暮らしを守るため、個別支援活動や保健事業等の公衆衛生看護活動の優先順位を判断し自組織の方向性を決定</p> <p>具体例 BCP 計画に基づき、継続する事業、休止する事業等について、期限を区切って具体的な方向性を提案する。</p>
2	<p>新たな感染症への対応力向上に向けた、課・系の組織を越えた保健師同士の支援の仕組みの構築</p> <p>具体例 保健師向け研修会の開催や情報共有の場の設定、連絡網の整備等を行う。</p>
3	<p>新たな感染症対応における保健師以外の職種への業務移行の可否を判断</p> <p>具体例 業務を俯瞰し業務の流れや量を把握した上で、専門職しか出来ない業務とその理由を明らかにし、業務分担の変更を提案する。</p>
4	<p>チーム一丸となって業務に取り組める様、職員のモチベーションをあげ、活性化させるリーダーシップの発揮</p> <p>具体例 活動の目的をわかりやすく示し、何のために活動しているのか、またその成果について常に発信する。</p>
5	<p>自治体内の各種会議の開催・参加による感染症対応の情報共有と方向性の確認による全所(全庁)体制構築の補佐</p> <p>具体例 各種会議で必要な情報、共有すべき情報を提供できるよう準備し、方向性について提案できるよう情報を整理しておく。</p>
6	<p>保健所長など指示命令を担う者の補佐・遂行に向けた調整</p> <p>具体例 各担当業務の状況や現場の声を把握しつつ、国や専門家等からの情報を収集し、業務遂行に向けたマネジメントや提案をする。</p>

2 業務マネジメント

No	感染症を中心とした健康危機管理において統括保健師に必要とされる技術項目と、その具体例
7	<p>新たな感染症対応の進捗状況を把握し、業務の優先順位を整理し判断</p> <p>具体例 新たな感染症対応の進捗状況把握は、業務タスクの洗い出し・業務フロー図(感染症担当部署で作成)を確認する。未完成ならヒアリングし作成支援する。</p>
8	<p>新たな感染症対策において、常勤保健師が主として担うべき専門的業務を見極め優先的に配置</p> <p>具体例 タスクの中で常勤保健師が実施すべき業務は何か感染症担当部署や統括補佐の保健師で協議しその業務に常勤保健師を優先的に配置できるよう調整する。</p>
9	<p>保健師の業務負担を考慮した上で、自治体全体を視野に入れた業務調整</p> <p>具体例 常勤保健師がすべき感染症対応が保健所内では困難と予測されたら、所長と協議しながら自治体全体での応援を視野に入れた業務調整を関連部署に提言する。</p>
10	<p>公衆衛生看護の専門的判断を要しない感染症対応業務への人材(派遣看護師等)活用の判断・助言・調整</p> <p>具体例 常勤保健師でなくとも看護職が担える業務を抽出し、派遣の看護師等に業務委託できるかの判断と調整をする。</p>
11	<p>変化する局面を捉え、先を見据えた業務(電話相談、疫学調査、PCR 検査所の設置、クラスター発生、健康観察など)遂行のためのチーム編成の提言・推進</p> <p>具体例 発症者の増加に伴う業務の量と内容の増加に対処するため、業務を区分しチーム編成が必要になる。今後の感染状況を予測しながらチーム編成を提言する。</p>
12	<p>所内全体の感染症対応業務の進行状況の情報共有と業務量の可視化の提言・推進</p> <p>具体例 毎朝ミーティング等で進捗状況を所内共有する。また、白板等の活用やチームリーダーの打ち合わせも調整し、タスクごとの業務量の可視化を提言する。</p>
13	<p>過重な業務量・業務時間を把握し状況に応じた勤務体制の変更等による軽減策の提案</p> <p>具体例 職員の業務時間の管理は人事・総務部門での所管であるが、職員の勤務実態から過重労働の状況を確認し、フレックス等の軽減策を提案していく。</p>
14	<p>職員の業務負担の軽減のため、デジタル化を含めた効率化を推進</p> <p>具体例 発生届、患者管理等デジタル管理を推進、情報の共有は組織で使用している情報共有ツールを積極的に活用する。業務フロー確認し、効率化方策を協議する。</p>

No	感染症を中心とした健康危機管理において統括保健師に必要とされる技術項目と、その具体例
15	ICT(HER-SYS、電子カルテ等)の活用を推進するため、保健師等看護職の研修開催の提案と参加機会の確保 具体例 ICT 活用の推進には、ICT を苦手とする職員が活用できることが必須となるため苦手職員が活用できるよう研修開催を提案し、参加しやすいように調整する。
16	新たな感染症対応を機に保健師に求められる役割を可視化し、自治体における保健師活動の理解を図る 具体例 新たな感染症の対応経過(発生推移グラフ、クラスター発生時の対応、生じた問題と対策等)感染症担当部署と作成し所内共有し、保健師の役割を明示する。
17	新型コロナ感染症に係る保健活動で得られた知見を活用した今後の健康危機管理対処計画等の参画 具体例 感染症対策の経緯(発生状況、発生した問題・課題、対応した成果、残された課題等)を流行収束時点で所内で振り返り資料化、今後の対処計画に参画する。
18	感染症対応のための物的・人的資源の必要性を判断し予算担当部署に働きかける 具体例 適宜タスク・フローを見直し、今後必要な応援・派遣を人事所管部門に提示する。コールセンター設置等業務軽減策に必要な予算を担当課に働きかける。
19	応援者が役割を発揮できる様なマニュアル作成やオリエンテーション等の遂行を管理 具体例 オリエンテーションは動画の映写・パワーポイントの音声説明等効率化を促す。変更業務が反映されているか、応援職員が適材適所配置されているか確認する。
20	自治体内(所内)で不足する保健師等を担当部署と調整し、大学や地域の関連施設等に応援を依頼 具体例 庁内の保健師、委託の看護職以外に看護職の応援が必要な際は、IHEAT、大学の職員、保健師のOB、地域の看護職等々様々な人脈で看護職を確保する。
21	外部の専門家人材(感染症認定看護師や、実地疫学調査専門チーム等)の導入の判断・提案・調整 具体例 外部専門機関スーパーバイズ導入の効果を感染症対応部署と考え、必要な資料作成の助言・協力を実施する。

3 地域マネジメント

No	感染症を中心とした健康危機管理において統括保健師に必要とされる技術項目と、その具体例
22	<p>感染症以外のケアニーズを見逃さず、支援が届く体制の構築(公正な対応)</p> <p>具体例 感染症対応で関わった事例が他のケアニーズを抱えていた場合、可能な限り支援対象から落とさないよう努める。</p>
23	<p>感染者の孤立予防を意識し、関係機関との支援体制づくりを提案、構築、支援</p> <p>具体例 感染者への調査等においてもケアの対象者として寄り添い、本人家族が孤立しないようケアを調整する。</p>
24	<p>地域住民へ感染症に関する正しい知識・情報の伝達のための区市町村との協力体制の構築</p> <p>具体例 保健所は住民への啓発ルートに限りがあるため市町村と協力して効果的に住民に発信する。</p>
25	<p>地域の関係団体・医療機関等の対応状況の把握及び対策への反映</p> <p>具体例 医師会や薬剤師会、医療機関の対応と併せて在宅医療分野(訪問看護、往診等)、福祉機関の関わりを把握しながら連携を模索する。</p>
26	<p>新たな感染症対応が可能な医療・福祉機関を発掘し、患者の受入れやクラスター対応等への協力に向けた調整や支援</p> <p>具体例 日頃から医療機関、福祉機関との接点を大事にして情報を蓄積しておき、有事に活用する。</p>
27	<p>地域全体の感染対応力の底上げのため、クラスターリスクがある施設への感染管理対応力向上に向けた支援体制の構築</p> <p>具体例 高齢者施設等の研修の他、利用者の出入りが日常的なデイサービス等の施設や看護職が少ない施設には個別に感染症対策について支援する。</p>
28	<p>医師会や管内医療機関等との信頼関係を基盤とした、自宅療養者の医療支援体制の構築</p> <p>具体例 日頃から在宅医療の体制づくりを進める上で、感染症まん延時にも対応可能な体制となるよう関係者との理解を図る。</p>
29	<p>新たな感染症対応後の継続した連携協働体制を見据え、地域の看護職団体・施設(助産師会や訪問看護ステーション)への業務委託等を検討、本庁部門への提案</p> <p>具体例 感染症まん延時に活用することで効率的・効果的な業務を整理しておき、有事の際は委託のための財源確保、事務の集約等を本庁に提言する。</p>
30	<p>新たな感染症対応を契機に感染症の地域ケア体制構築に向け、保健医療福祉機関との密なネットワークを構築</p> <p>具体例 感染症対応で培った ICN、訪問看護、医療機関等との関係性を維持し、日頃の地域体制の強化、ネットワークに反映させる。</p>

4 情報マネジメント

No	感染症を中心とした健康危機管理において統括保健師に必要とされる技術項目と、その具体例
31	国内外の感染症の動向と、国の方針および他自治体や保健所の対応を把握し自組織の対策に生かす
	具体例 厚労省や県の通知をもとに、流行圏域との往来による影響が懸念されるエリアの医療機関等の関係機関と情報共有を行い流行拡大に備え検査体制等を検討する。
32	感染状況の可視化に向けた疫学的な分析のための情報収集と資料化を指示・調整
	具体例 施設、医療機関の患者数などの情報をグラフや地図情報などで可視化する。
33	感染者が偏見・差別にさらされないように、個人情報保護や権利擁護が組織的に行われるよう助言・協力
	具体例 報道担当部署と感染状況を公表する際の情報範囲の検討、差別偏見の注意喚起の資料作成等を検討する。
34	住民や関係機関の感染不安を軽減できるリスクコミュニケーションを意識した情報発信のための調整
	具体例 感染症に関する FAQ の公表、コールセンターの早期開設等を提案する。
35	感染症情報などの増量する文書・情報の適切な保管や管理が行えるよう、意見や助言・調整
	具体例 国や県の通知や事務連絡等の整理・管理、患者記録等公的文書の管理方法を助言する。
36	統括保健師間の横のつながりを活用した最新情報の共有、情報交換、情報整理等
	具体例 統括保健師の定例会を開催し共通または各所特有の課題解決に向け調整を行う。

5 人材管理

No	感染症を中心とした健康危機管理において統括保健師に必要とされる技術項目と、その具体例
37	感染症対応部署の急激な業務量増加に対応し、自治体内の人員を活用した保健師人員の確保・調整
	具体例 感染症対応部署の業務量を把握し、他所属から保健師応援が得られるよう本庁統括保健師と連携して人員を確保する。
38	感染症対応で補強を要する保健師の増員など、所属または組織内の人事担当に提案・調整
	具体例 感染症対応に係る業務量と保健師人員の兼ね合いをみて、所属の人事担当に保健師の増員について提案する。
39	パンデミック時において公衆衛生看護活動を実践する上でのリスク管理(感染予防対策、トラウマ予防対策等)
	具体例 感染症対応に従事する保健師と定期的に面談し心身の状態や感染管理技術を把握するとともに、必要に応じてメンタルヘルス相談の利用を促したり、ミーティングの場を設定する。
40	感染症対応で疲弊する保健師一人ひとりの健康被害を予防し、モチベーション維持のための声かけや面談
	具体例 感染症対応に従事する保健師一人ひとりに声かけや面談を行い、業務の意味付けをサポートしたり、個々人を認めたり、労ったりする。

6 人材育成

No	感染症を中心とした健康危機管理において統括保健師に必要とされる技術項目と、その具体例
41	保健師の適性に配慮し、人材育成を視野に入れた業務配置
	具体例 保健師の適性を把握し、個々の能力を高めることができるよう業務配置の提案・調整をする。
42	若手保健師育成のために、ベテラン保健師がモデルを示しながら伴走できる体制整備
	具体例 若手保健師がベテラン保健師のサポートを受けられるようペアで業務ができるよう調整する。
43	感染症対応の経験を、若手保健師の対人支援力強化の機会とできる体制整備
	具体例 若手保健師とベテラン保健師によるあらゆる場面での振り返りや対応方法等を確認する場を設ける。

No	感染症を中心とした健康危機管理において統括保健師に必要とされる技術項目と、その具体例
44	<p>保健師の健康危機管理対応力の強化のため、実践に関するリフレクションの機会を確保</p> <p>具体例 対応についてチーム内で振り返りを行うなど、リフレクションの機会を確保する。</p>
45	<p>新たな感染症に直面した際に、迅速に保健師等看護職が知識・技術を向上できる研修等開催の提案と参加機会の確保</p> <p>具体例 保健師等を対象とした新たな感染症に関する研修の開催を提案するとともに、保健師等が参加できるよう業務を調整する。</p>
46	<p>今後の感染症による健康危機を想定し、長期的ビジョンを持った平時からの保健師人材育成体制の整備</p> <p>具体例 健康危機対処計画に基づく研修や訓練を定期的実施する。</p>
47	<p>健康危機においても、保健師活動の理念と目標を伝え、アイデンティティを形成</p> <p>具体例 自治体における目指す保健師像を確認するとともに、キャリアラダー等を活用しながら能力開発を促す。</p>
48	<p>自身のモチベーション維持のため、統括保健師間のネットワークを作る</p> <p>具体例 自治体内や他自治体の統括保健師と情報交換ができる会議や研修等に参加し、ネットワークを作る。</p>